

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170103853
法人名	医療法人 社団総文会
事業所名	グループホーム あだちⅡ
訪問調査日	平成20年8月9日
評価確定日	平成20年11月13日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103853		
法人名	医療法人社団総文会		
事業所名	グループホームあだちⅡ		
所在地 (電話番号)	〒502-8227 岐阜市北一色4丁目5番7号 (電話) 058-249-5003		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1		
訪問調査日	平成20年8月9日	評価確定日	平成20年11月13日

【情報提供票より】(20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	30 人	常勤 12人, 非常勤 18 人, 常勤換算	13.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	17,500 円
敷金	有() 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	8 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 75.2 歳	最低 60 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	成瀬クリニック・小笠原内科・県立総合医療センター
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあだちⅡは田園に囲まれた静かな環境で、近くには大きな病院がある。母体が精神科のクリニックであり、同系列のグループホームとデイサービスがある。また、デイサービスと隣り合わせて併設されており、時にはデイ利用者と一緒にリクレーションを行ったりして交流を持っている。利用者は精神症状を持つ方もおり、家庭的な雰囲気の中で自立支援を心がけ、身体機能の低下を防ぎ、安全で安心な生活を送れるよう支援がされている。医療面の連携が充実しており、年1回本人・家族とクリニック院長が重度化や終末期に向けた話し合いがされている。又地域との交流を図るよう取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果に基づき、職員全員で改善に向けた取り組みがなされ、改善の努力がみられる。運営推進会議も開催されるようになり、会議の在り方についても前向きに検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で話し合い、全員の意見が反映され、サービスの質の向上や、改善に向けた取り組みがなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1回、地域の代表者、家族の代表者、運営者、管理者で運営推進会議を行い、その意見を基にサービスの向上に努めている。開催日については、できるだけ参加者に合わせるなどの配慮を心がけ、参加メンバーに十分な理解を得て、今後も施設運営に反映させることができるよう、努力することが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との連携を大切にしながら利用者との関係をより良いものになっている。年一回の家族会はもとより、運営推進会議でも意見や要望が言い易い雰囲気作りを心がけ、家族への報告もよりわかりやすく、楽しみにしてもらえそうな内容のものになっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しているが利用者の状況から地域活動への参加は限られているが、地域の運動会を見学に行く等、ホーム側から出かける努力をしている。また、近くの喫茶店にも受け入れてもらい、定期的に利用者と一緒に出かけている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解したホーム独自の理念になっている。地域の中で、その人らしく暮らしていける内容であり、職員全員が周知している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の玄関、共有空間など、見やすい場所に理念を掲げ、日々のケアで理念の実践に向けた取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入しており、地域の運動会を見学に行く等、ホームから出かける努力をしている。また、ホーム側からも季節ごとの行事の案内を出し、参加を呼びかけている。	○	ホーム側に用事があるときだけ出かけるのではなく、地域の一員として、ホームとして、何が出来るかを考え、積極的な地域参加が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義、目的を、職員全員が理解しており、自己評価も全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、地域の代表者、家族の代表者、運営者、管理者で運営推進会議を行い、その意見を基にサービスの向上に努めている。	○	運営推進会議を開く事で他の機関とのつながりも広がり、より深いものとなる。参加メンバーも固定してしまうのではなく、見直しをしながらより多くの意見を聞き、サービスの質の向上につなげることが望まれる。

グループホーム あだちⅡ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスとして、運営推進会議以外でも必要に応じて市の担当者と連絡を取り合い、協力体制を作り、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の金銭出納帳報告のほか、担当職員からの暖かさの伝わる手書きの便りで、利用者の暮らしぶりや健康状態を知らせている。緊急時には電話などで知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回行われている家族会議や3ヶ月に1回の運営推進会議では、家族にも意見や要望を出してもらい、その意見を出来るだけ取り入れ、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない職員の離職、異動に対しては、利用者にとできるだけ負担がかからないよう、各フロアの担当者を中心に職員全員で馴染みの関係作りに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。また、事業主体の医療機関の院長や看護師による、医療に関する専門的な勉強会を開き、知識を得ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型になる前は他事業所との交流があったが、運営推進会議を行うことになってからは交流の機会がなくなった。	○	近隣の同業者とホームを行き来したり、「運営推進会議の在り方について」など話し合い、サービスの向上につながるができるよう、期待したい。

グループホーム あだちⅡ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスを併設している事から、デイ利用者の入所が多い。同じ経営母体であることから、利用者の入所時には細やかな情報が伝えられる。入所時には院長、本人、家族で話し合いを持ち、納得した上で入所できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護する側と介護される側という関係ではなく、職員、利用者が一緒に食事の準備をするなど、共に活動する場面も多く設けられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、本人が何を一番望んでいるかを理解し、本人本位のケアを目標に取組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の介護計画書を活用し、利用者・家族の意見や担当職員の話し合いのもと、生活面と身体面とを考慮して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には1ヶ月ごとの評価を行い、3ヶ月ごとの見直しを行っている。状況の変化により本人・家族、職員・主治医等必要な関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。		

グループホーム あだちⅡ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて必要な通院介助・買い物、理美容の支援、年間行事、利用者全員で喫茶店へ行く、時には利用者の精神的ストレス解消のため個別に喫茶店へ行くなどの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医である2ヶ所の病院より主治医を本人・家族が選択している。かかりつけ医の月2回の往診があり、必要時には訪問看護や訪問リハビリも受けられる。主治医との連携も密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の支援については入所時より院長より話し合いがある。その後1年ごとに本人・家族・かかりつけ医・院長において話し合いがもたれている。状態に応じて頻回に話し合わせ、全職員も共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーには常に配慮し、言葉かけ、対応、記録等にも注意している。個人情報の取り扱いにも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを大切にして声かけはするが、無理強いはいはしないで利用者の意思を尊重した支援がされている。		

グループホーム あだちⅡ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態・摂取状況・栄養面・嗜好等を配慮し、利用者が全量摂取できるよう支援がされている。買い物・下ごしらえ・味付け・後片づけなど利用者のできる範囲で一緒に行っている。職員は別に食事をしている。	○	職員一名からでも介助しながら利用者と共に同じ食事を食べられることを希望する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴としているが、利用者の希望を確認しながら、一対一でゆったりと、入浴時間をコミュニケーションの場と考えて支援している。散歩が出来なく、足にむくみのある方には足浴を行って血行をよくするなど、細やかな支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力を引き出すような支援が行われている。参加する喜びや自信を持つことができ、感謝の言葉かけがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的に夏の暑い時を除いて毎日散歩や買い物に出かけている。時には利用者全員で地域の喫茶店へ行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、表玄関のみ施錠をしている。立地条件でホームの前に用水路があり、とても危険であり安全のため、利用者の「外へ行きたい」と希望があれば職員と一緒に外出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回消防署立ち会いのもと、運営推進委員・民生委員・家族の方々の参加・協力を得て実施しているが、地域の参加が得られない。今回は夜間の避難訓練を行い、避難路の確認等を行う、非常用食料・水・備品等を準備している。	○	避難訓練等を行うにあたり、ホーム便りや回覧板等で地域の参加を呼びかけられることを期待する。

グループホーム あだちⅡ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好や栄養バランスを考慮した献立を作成し、食事・水分摂取量の状況を記録している。職員は情報を共有し、状態把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に清潔感がある。食堂のテーブルの横には長椅子のソファが置かれ、ちょっと休憩したり、気分転換したり、ゆったりとくつろげる場所であり、明るく居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人・家族に馴染みの家具や品を持ってきてもらい本人が生活しやすく落ち着ける居室となっている。		